

2005 年 BRICs 国際産業連関表の作成と利用
Compilation and Use of the 2005 BRICs International Input-Output Table

(猪俣哲史・桑森啓編)
Edited by Satoshi Inomata and Hiroshi Kuwamori

2009 年 3 月

独立行政法人日本貿易振興機構
アジア経済研究所

はじめに

現在、BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）と呼ばれる新興市場国の躍進が注目を集めている。広大な国土や豊富な天然資源、豊富な労働力を有するこれら BRICs 諸国の台頭は、世界の国々の産業構造や生産ネットワークを大きく変化させつつある。

このように、従来の日・米・欧・アジアに加え、急速に複雑化する世界経済の相互依存関係を解明するため、アジア経済研究所では、現地の共同研究機関とともに、2007 年度より 5 年計画で 2005 年 BRICs 国際産業連関表の作成事業を開始した。2 年目である 2008 年度は、1 年目の 2007 年度に行ったデータの利用可能性や共同研究機関の調査などのフィージビリティ・スタディに基づき、BRICs 国際産業連関表の対象国のデータの加工を行った。

本研究会は、この 2005 年 BRICs 国際産業連関表の作成事業に付随して実施しており、作成方法や分析方法について検討を行っている。2008 年度は、主として BRICs 国際産業連関表の対象国の表を用いたさまざまな分析を行い、各国の経済構造や表の特徴の把握に努めた。本報告書は、その成果をまとめたものである。

なお、最終成果である 2005 年 BRICs 国際産業連関表は、2011 年夏に完成し、統計資料シリーズ（SDS: Statistical Data Series）として刊行する予定である。

2009 年 3 月

編者しるす

研究会の構成

主査	猪俣 哲史	アジア経済研究所開発研究センター ミクロ経済分析グループ長
幹事	桑森 啓	アジア経済研究所開発研究センター ミクロ経済分析グループ長代理
委員	久保庭眞彰	一橋大学経済研究所 教授
	岡本 信広	大東文化大学国際関係学部 准教授
	佐藤 創	アジア経済研究所開発研究センター 法・制度研究グループ
	内田 陽子	アジア経済研究所開発研究センター ミクロ経済分析グループ
	孟 渤	アジア経済研究所開発研究センター ミクロ経済分析グループ
オブ ザーバー	玉村 千治	アジア経済研究所研究企画部長
	野田 容助	アジア経済研究所開発研究センター マクロ経済分析グループ
	塚田 和也	アジア経済研究所開発研究センター マクロ経済分析グループ

目 次

序 章	解剖 BRICs ー産業連関分析の可能性ー	猪俣哲史 ……	1
第 1 章	天然資源とブラジル ー構造パス解析ー	猪俣哲史 ……	15
第 2 章	ロシアの新分類産業連関表体系	久保庭眞彰 ……	27
第 3 章	インドの産業構造 ーインド産業連関表による分析ー	佐藤創・桑森啓 ……	53
第 4 章	インド産業の生産ネットワーク ー質的産業連関モデルによる分析ー	桑森啓 ……	73
第 5 章	空間的付加価値連鎖と地域間相互依存関係 ー中国の地域間産業連関表を用いてー	孟渤 ……	95

第6章	中国の水問題は解決可能か？ —産業連関モデルからのアプローチ—	岡本信広	……	117
第7章	国際産業連関表における産業部門の統合 —SPlus 及び R による部門統合プログラムの利用—	内田陽子・野田容助	……	141